



移住3年目
溝口さんご家族
ご夫婦で料理人として
「やさい料理のお店 溝口家の台所」
を経営

2024年8月にイタリア トスカーナ州から家族で移住。イタリアで10年以上
キャリアを積んだ2人が、現在は小松町大頭でお店を営んでいます。

人と緑の温かみに惹かれて

緑豊かな西条での新しい日々

自然豊かなスローライフを求め、日本に移住先を探していた溝口さん一家。「何もつながりのない地域でいきなり店を開いても、よそ者扱いされるのではというイメージが強かったので、移住者が多く『受け入れてくれる環境』が整っているまちを選ぶことにしていました」。

いくつかの自治体に問い合わせたときに一番対応が早かったのが西条市でした。「職員さんに紹介してもらった人や場所は、まさに自分たちが求めているイメージそのもの。数日後には物件も決め、『ここにしよう』と移住を決定しました。娘の新学期開始に合わせて短期間で準備を進めましたが、実際に始めた今も、緑が広がるこの地域は、お店のスタイルにぴったりだったと感じています」。娘さんも新しい環境にすぐなじみ、学校生活を楽しんでいます。

地域と一緒につくるお店

お店で使う野菜の多くは、ここに来てから知り合った地域の方々から仕入れています。「お店のことを知った農家さんから声を掛けていただきました。西条に来るまでは、あまりなかったですが、今は顔を合わせ、生産者さんから直接仕入れた野菜をおいしく料理しています」。

お店づくりで一番大切にしたいのは、厨房からお客さんの顔が見渡せ、会話できる空間にすること。「何度何度も縮図を描き直し、大工さんと相談しながら店を完成させました。料理中も反応が見え、より寄り添った接客や料理にすることにつながっています」。昨年7月にオープンし、常連のお客さんも増えました。「お店の近くに実家があるお客さんからは、『この店の料理が楽しみで、頻繁に帰省するようになった』と言ってもらえて、本当にうれしかったです」。

常にお客さんのことを考え、挑戦を続けるお二人。「まだまだスタートラインですが、今後の目標は、西条市というブランドそのものの価値を上げることです。今は、西条市に直結するような分かりやすいものが



やさい料理のお店 溝口家の台所

所在地：小松町大頭甲631-6

温かい雰囲気店内で、地域で育った旬の野菜が味わえるお店です

詳細は▶

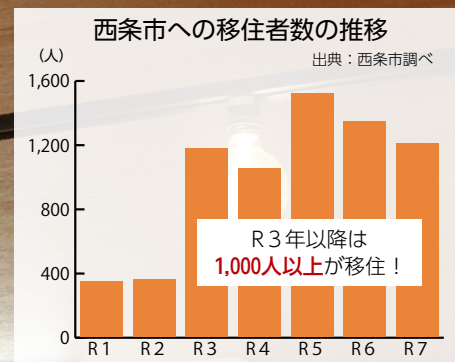


8月に食の創造館で開催された夏祭りに出店。イベントの参加を通して地域との関わりも大切にしています

ないと感じます。だからこそ食とうまくつなげて、『西条といえはこれ』という名物が作れたら面白いですね」。

特集 「ようこそ」のその先

西条に移り住み、ここで暮らしを重ねてきた人たち。はじめは「移住者」でも、月日が経てば、地域で顔を合わせ、仕事をし、子育てをし、ともに暮らす西条の仲間になっていきます。今回は、そんな三組を訪ねました。それぞれの暮らしや地域とのつながり、新鮮な視点から見つけた西条の魅力を通して、私たちのまちを改めて見つめてみます。



橘は、懐の深いまち。 ここだから挑戦できる

日野さんは東京から移住し、誰もがつながれる場所を創りました。
現在は、地域の皆さんと一緒に子どもたちが帰ってきたいと思えるような未来を育んでいます。

地域と未来を描くコミュニティ

以前は東京で会社員として働いていた日野宗一郎さん。2022年に祖母が住む西条市橘地区に移住しました。現在は同じ勤め先でのリモートワークをしながら、地域の人たちが集う複合型滞在施設「KIKUKO」と、シェアキッチン「KIKUKOの台所」を営んでいます。KIKUKOの名前の由来は、祖母の名前（菊子さん）だそうです。「移住を検討している人は、これから暮らす地域に、どんな人がいるのか分からないと、とても不安だと思っています。僕の場合は、橘地区にずっと住んでいた祖母の存在があったので心強かったです。それに加え、この地域で受け入れてくれた皆さんの優しさも日々感じています」。

引っ越しをしてまだ間もない頃、地域自治組織「橘の未来を拓く会」の会長である伊藤有香さんに声を掛けてもらい、活動に参加しました。「これまでは、小学校の授業で地域の取り組みを紹介したり、健康麻雀で交流の場を作ったりしました。ほかにもKIKUKOを会場にしてイベントなども開催しました」。

新しい風が吹くのは、 風通しのいい場所があるから

こうした活動を通して、地域の人を深く知れたことがうれしいと話す日野さん。「地域の未来を皆さんと一緒に考える中で、よく、『課題はあるけど、解決策が分からない』という声を耳にしますが、僕は、ずっとここに住んでいないからこそその視



笑顔あふれる絆が、これからの橘地区を元気にしていきます



橘スープ会議の様子。世代を超えて語り合う温かい場になりました

点でアイデアを出すことができます。例えば、『橘スープ会議』。地域課題について話す場に、若者の参加者を増やしたいという思いがありました。そんなときに、KIKUKOを会場にして開催したイベントです。高校生や大学生も交え、地元の野菜を使ったスープを飲みながら、気軽に話し合えました。さらに、アイデアを素直に受け入れてくれる地域のの人たちにも感謝していると言います。「新しい提案などに対して、『怖い』『変えたくない』と思うのは自然なことですが、橘の皆さんが抵抗なく、僕の考えを受け入れてくださるのは、ありがたいです」。

次世代へつなぐ思い

目指すのは、橘地区を子どもたちが「ここに帰ってきたい」と思える場所にする。誰かが魅力ある場所に行きたいと思うはず。この地域をそういう場所にし、発信していくことで、もっと多くの人たちに来てもらいたいですね。地域に新しい風を吹き込む日野さんと、温かく迎え入れ、共に歩む地域の人々。互いを尊重し合うその絆が、未来を照らします。



KIKUKO 所在地：西泉乙376

納屋をリノベーションした施設。コワーキングスペースやゲストハウスとして利用できます



詳細は▶



KIKUKOの台所 所在地：榎木146

8月にオープンした古民家シェアキッチン。誰でも気軽に利用できます



詳細は▶



移住4年目
そういちろう
日野宗一郎さん
会社員兼
コワーキングスペース運営



藤原佳枝さん
(橘の未来を拓く会)

「KIKUKO」も「KIKUKOの台所」も古い建物だったのですが、素敵な空間になりました。有言実行する姿を見せてくれて、私たちも『やりたい』と思っていいんだ、『やろう』と思ったらできるんだと、感動しました。



日野苗花さん
(橘の未来を拓く会)

私はUターンで西条市に戻ってきて、いつかできたらいなと思っていたカフェを、「KIKUKOの台所」を間借りすることで実現できました。実家の近くで夢が実現できる場所があって、よかったと感じています。



伊藤有香さん
(橘の未来を拓く会 会長)

リモートワークで働きながら、地域で新しいことに挑戦し続けているのが本当にすごい。会長として、宗一郎さんに声を掛けてよかったです。橘に新しい風が吹いているような感じ。本当に感謝しています。



川上正起さん
(橘校区未来づくり協議会 会長)

50年以上前からある地域行事も、担い手不足で存続が大変です。日野さんのように新しく来てくれた人たちのアイデアも取り入れながら、形を変えながらも残していきたいです。

橘地区の仲間たち

今回、日野さんのお声掛けで取材現場に集まってくださいました

このまちで、家族の根を張る

「子どもとの時間を大切にしたい」と、2020年8月に東京から家族で西条市丹原町へ移住。いっしょに地域の一員となり、日々活動しています。



移住7年目
中島さんご家族
慎二さん：整体師
佐知子さん：フォトグラファー兼「縁側のとき」スタッフ

何気ない日常が幸せに感じた

「庭でホースから水を出して遊ぶ子どもたちの喜ぶ姿を見たときに移住して良かったなと心から思いました」。中島さん一家は、西条市の移住体験ツアーに参加し、移住を決めました。「初日の子どもの様子を見た職員の方が、『絶対好きだから！』と次の日に連れて行ってくれた公園が特に印象的でした。自然豊かで、こなら子どもたちも、のびのび成長できると思いました」。

ご夫婦が移住してすぐに感じたのは、地域の方が「移住者」と線を引き、普通に接してくれる居心地の良さでした。「家の敷地の一角で家庭菜園を始めとき、知識のない私たちに近所の方がさりげなく声を掛けて教えてくれて、助かりました」。

また、移住する前は習い事などの教育環境に不安がありましたが、子どもの成長とともに解消されています。

夫婦それぞれが地域で輝く

夫の慎二さんは、PTA活動や地域自治組織「田野の未来を描く会」に参加しています。「『東京から来た人たちがいるから呼んでみよう』と声を掛けてもらったのが参加したきっかけです。これまで、安心安全マップの作成や、文化祭で大型スクリーンを使ったゲーム大会の開催などに取り組みました。地域の一員として動く楽しさを実感しています」。

一方、妻の佐知子さんも、先輩移住者さんが営む古民家宿「縁側のとき」のお手伝いなどを行っています。「地域に人を呼ぶため、まずは泊まる場所を作ろうと始まった宿。せっかく移住したので、地域のことに積極的に関わりたいと思っていた私にとって、うれしい出会いでした」。

「丹原には農業や製造業など、自分たちで何かを形にしている人が多くて本当に面白いです。私たちから

すると、西条市はまるで『発掘されるのを待っている原石』のように感じています。素晴らしい地域をもっと発信し、魅力を伝えていきたいです」。移住して6年、いつの間にか市民になっていったという中島さん夫婦は、移住直後よりもしっかり地域との関係を深め、日々の暮らしを紡いでいます。その姿こそが、このまちの魅力を伝えるメッセージとなっています。



小学校の奉仕活動に参加する慎二さん。仲間とともに汗を流し、地域を支えます



一棟貸し古民家宿「縁側のとき」
所在地：丹原町関屋76-1
一棟貸し宿で、ゆったりとした時間が過ごせます



田舎と街のいいところどり



山藤さんご家族
(移住2年目)

世界中のお遍路さんや旅人と交流できる



武田さんご夫婦
(移住5年目)

海・山・川が近い！



渡邊さんご家族
(移住11年目)

いろんな場所から水が湧き出てる



小長井さんご家族
(移住4年目)

西条ってここがええよね

人が優しくて温かい



日野さんご夫婦
(移住5年目) ※4～5ページ

野菜がおいしい



溝口さんご家族
(移住3年目) ※2～3ページ

子どもがのびのび成長できる環境がある



立道さんご家族
(移住4年目)

空気がおいしい



中島さんご家族
(移住7年目) ※6ページ

皆さんに聞いた

西条、もっとこうなればええよね

- 市内外問わず人が集まる目玉施設がほしい
- 公共交通機関がもっと発達してほしい
- 西条を全国の人に知ってもらいたい
- オリジナリティがあふれるまちになってほしい
- 地域と気軽に交流できる場がほしい

これからも、西条と一緒に

西条を好きになって住む人は、長く住む私たちが知らない、気付かないまちの魅力を教えてください。そして今では、まちの未来と一緒に作る仲間です。

そんな私たちの西条がこれからもずっと素敵なまちでありますように！



移住推進課の皆さん